

INMP 通信 No. 32

November 2020

編集：安齋育郎、山根和代

翻訳者：赤松敦子、寺沢京子、山本美穂子



International Network
of
Museums for Peace

第 10 回国際平和博物館会議 オンライン会議での画期的成功 マンガ・パンデミック Web 展は 12 月 25 日まで開催中

未知の出来事に苦闘し続けた 2020 年国際平和博物館会議

第 10 回国際平和博物館会議は 2020 年 9 月 16 日～20 日に京都と広島で実際に参加者が出席して開催される予定でした。しかし、新型コロナ・ウィルス感染拡大により、当初の予定の変更を余儀なくされました。そして 2020 年 4 月に平和博物館国際ネットワーク (INMP) は、理事会と諮問委員会の見解を考慮して、組織委員会にオンライン会議への計画変更を提案しました。

組織委員会は、このような国際会議をインターネット上で実施した経験がなく、会員参加の見通しなど未知の要素が多く、計画変更の当初はこの国際会議が成功するかどうか確信が持てませんでした。

しかし、組織委員会では、発表の申し込み期限である 6 月 15 日に応募状況を確認し、安心しました。この国際会議での発表に、様々な国から 100 名以上の参加者が多様なテーマで発表を希望しているとわかったのです。

発表者への技術的支援が 大きな助けに

このような状況では、主催者側だけでなく、インターネット上で使用される技術を扱うことに熟練していない発表者も困っていました。組織委員会の特別技術顧問である玉城ロイ博士は、こうした技術的な問い合わせにも丁寧に対応し、会議の成功に大きく貢献しました。

また、組織委員会は発表者と組織委員会とのコミュニケーションを円滑にするために、山根和代博士を国際連絡委員会委員長に任命し、INMP ジェネラル・コーディネーターの安齋育郎教授が「ジェネラル・コーディネーターのデスクから」を頻繁に発行し、INMP 会員や発表者との情報共有を図りました。

和太鼓と生花の日本文化プログラム が行われた開会行事

9 月 18 日にホームページで公開されたこの国際会議の内容は、大変広範囲の分野

に渡るもので、情報量も多く、魅力的なものでした。

開会行事は、共催団体である京都芸術大学の学生の皆さんによる和太鼓の演奏で始まり、歓迎の辞に続く記念講演は、日本の伝統的な華道を教えている華道家元池坊の次期家元の池坊専好さんによるものでした。



和太鼓の演奏

INMP の諮問委員であるクライヴ・バレット牧師は、次のように感想を書いています。「（この開会行事で発表された方々は）お互いを見事に補完していました。私たちは何時間もかけて

"平和"の意味を議論しているわけですが、この 2 つのビデオでは、平和の大変多くの要素が示されています。和太鼓の演奏では、変化のために重要な、興奮、エネルギー、活動性、団体での共同作業を示しています。生花は、一人一人の大切さ、内省、静けさ、秩序、自然の美しさへの感謝を語りかけています。しかし、和太鼓と生花は「調和」の異なった次元を表現しています。それらは「平和」の幅広さと多様性を示しているのです。



池坊専好氏による生花の実演

ホームページ上での 内容豊かな発表

この国際会議の発表は、INMP のウェブサイト [website](#) でまだご覧いただけます。公開されている情報は、新版が発行された『世界の平和のための博物館』"[Museums for Peace Worldwide](#)"（日本語版・英語版）、インターネット上のセミナーである 4 つのウェビナー（広島討議会 [Hiroshima Panel](#)、館長・学芸員討議会 [Directors/Curators Panel](#)、青少年討議会 [Youth Panel](#)、ジェンダーと人権討議会 [Gender & Human Rights Panel](#)）、論文発表、討論会、ビデオ展示、ポスター展示、マンガ・パンデミック Web 展 [Manga Pandemic Web Exhibitions](#)、INMP 総会 [the INMP general meeting](#) などです。諮問委員のサイド・シカンダー・メーディ教授は、主催者に以下のようなメールを送ってこられました。

「INMP のサイトを訪問して会議を振り返ってみました。驚くべき内容です。素晴らしい会議でした。組織委員会は、重要なテーマに関する多くのビデオや論文の発表、重要な問題に関するよくまとめられた討議会、そして美しい文化プログラムを取りまとめることに成功しました。」



「ウェビナー4」（若者討議会）での討論に参加した若者の皆さん

マンガ・パンデミック Web 展は 2020 年 12 月 25 日まで開催されています。マンガ

作品の投稿はプロ・アマ問わず 11 月 30 日まで受け付けています。

9 月 18 日、数十名の会員が様々な国から参加するオンライン総会が開催され、全ての議案が原案通り承認されました。山根和代博士（理事）、玉城ロイ博士（諮問委員）に特別功労賞を、安斎育郎氏（ジェネラル・コーディネーター）には 2021 年 1 月 1 日付で名誉ジェネラル・コーディネーターの称号を授与することが決定されました。

リビング・ピース・ミュージアム ブリティッシュコロンビア州 カナダ

9 月 16 日～20 日まで、グローバルな“オンラインイベント”として開催された INMP の第 10 回会議は、初めてオンライン上で開催され、さまざまな形（ビデオでの発表、パネルディスカッション、特別ウェビナー、ビデオ展示、ポスター展示、ウェブ展示、論文など）で 100 以上の参加があり、大成功でした。これらのほとんどと、開会式や閉会式を含む他の会議の議事録は、[こちら](#)のウェブサイトでも今後公開されます。新しい博物館（バーチャルな博物館として構想されているバンクーバー〈カナダ・ブリティッシュコロンビア州〉のリビング・ピース・ミュージアム（以後 LPM））の立ち上げと、INMP 会議のオープニング日（9 月 16 日）が重なったのも、本会議が初めてのことでした。

スルタン・ソムジー博士は、「LPM のコンセプトは、カナダの平和の伝統を受け継ぐ膨大な遺産に触発されたものです。私たちの主な目的は、地域社会の記憶の中に生きている平和の伝統がどのようなものであるか、どのような物的文化、歌、物語が守ってこられてきたか、そしてカナダの自然と人々に触発されて、現在どのような新しい

伝統が生まれているかを知ることにあります。これらの新しい伝統は、視覚芸術やパフォーマンスアート、民話や小説に書かれたり、声や身体表現の創作として音楽に表現されたりと、さまざまな形で伝えられてきたことでしょう。また、鷲の羽や平和の木などの自然の中にも見られます。



平和の杖と平和の木の葉を持つポコットの長老とスルタン・ソムジー博士

カナダの遺産は、先住民族、ヨーロッパ人、アフリカ人、ハイチ人、カリブ海諸国の人々、アジア（中国人、インド人、日本人、フィリピン人、アフガニスタン人、ペルシャ人、アラブ諸国の人々）、南米、そしてカナダの 24 の多数・少数の文化集団のすべての人々の、複数の遺産からその要素が得られています。その一例として、先住民族のワンパムベルト（貝殻のビーズで編んだベルト）は、交渉の儀式や平和を願う儀式で使用されていました。—LPM は、地域社会と協力することで、このカナダの巨大で多面的な遺産の探求、認識、パフォーマンスや展示を行うことを目的としています。私たちが歩いていくうちに、LPM は、カナダの平和の遺産という国家的な織物の糸を、世界の類似した遺産と結びつけて目に見えるようにし、アーカイブ化して、段階的に生成していきます。

LPM のエキサイティングで革新的なプロジェクトの一つは、神聖な地理的平和遺産の世界的なデータベースを研究し、維持することです。太古の昔から、人々や社会は、森や木、川、山、岩石などの自然の造形と結びついてきました。時にこれらの場所が、集会や儀式、和解、成人式、癒しや神々や精霊への祈りのために草木を集めるための聖地となってきました。この重要な活動は、文化的平和遺産の伝統に対する理解と感謝を深め、平和の木の聖地のような絶滅の危機に瀕している場所の保護を支援することでしょう。公式発表の声明を含むLPMについての詳細は、こちらをご覧ください。

[website](#).

フォート・セント・ジョン、 ノースピース博物館

ブリティッシュコロンビア州の北東部、バンクーバーからかなり離れたアルバータ州との国境近くのフォート・セント・ジョンという町に、平和博物館と間違えられそうな名前の小さな博物館があります。しかしこの博物館は、“ピースリバー”という川にちなんで名付けられたノースピース地域の歴史を紹介しているものです。この町はブリティッシュコロンビア州本土で最も古いヨーロッパ人コミュニティであり、博物館では、初期の入植地、この地域の長い毛皮貿易の歴史、生物多様性、アラスカ・ハイウェイ建設の挑戦などの資料を保存しています。博物館の写真と詳細な情報はこちらをご覧ください。

[website](#)



国立スーザン・B・アンソニー ミュージアム&ハウス (アメリカ、ニューヨーク州 ロチェスター)

2020年、ニューヨーク州のロチェスターでは、女性の投票権を認めた、合衆国憲法の第19回改正批准100周年を祝いました。女性参政権運動に中心的役割を果たしたことで「スーザン・B・アンソニー改正」とも呼ばれています。この歴史的100周年は、アンソニー生誕200年、ミュージアム&ハウス設立75年でもあり、広く祝われました。



スーザン・B・アンソニー ミュージアム (ニューヨーク州、ロチェスター)

ミュージアムは公民権の伝説的リーダーの家であり、彼女が1872年に違法投票で逮捕された所でもあります。また、彼女が代表をしていた頃(1892-1900)は、全米女性参政権協会の間でもありました。1906年に86歳で他界した場でもあります。スーザンは奴隷制廃止、公教育、同一労働同一賃金の公平な労働実践、性教育、あらゆる形の差別撤廃、戦争放棄などを求める偉大な改革者でした。彼女のフェミニズムと平和主義は密接に結びついています。19世紀末の25年間、組織的平和運動での女性の役割増加に道を開いたのです。ミュージアムについては、[このサイト](#)をご覧ください。最近の記事「スーザン・B・アンソニー ミュージアムはトランプ大統領の赦免を拒否する」は、[このサイト](#)で読むことができます。



Victoria Brzustowicz によるポスター「革命家、スーザン・B・アンソニー」

100周年を祝う催しの一つに8月26日の、ニューヨークのセントラル・パークでの、3人の「女性権利の先駆者」を描いた像の除幕式がありました。スーザン・B・アンソニー、ソジャーナ・トゥルース、エリザベス・キャディ・スタントップの3人の約4mの像です。セントラル・パークの167年史で、（架空ではなく）史実の女性を描いた初めてのブロンズ像です。

メレディス・バーグマンによる彫像ですが、2014年に「ブロンズ像の慣習を破る」ことを目標に、ボランティアによって設立されたNPO「女性像」の功績です。スミソニアン・アート・ミュージアム2011年の報告によると、アメリカの屋外彫刻5200の内、たった8パーセントが女性像なのです。除幕式の記事は、[このサイト](#)で読むことができます。除幕式の1時間以上の興味深い映像（像の作成も含む）は、[このサイト](#)で。委員会のメンバー、彫刻家、3人の女性先駆者の子孫、ヒラリー・クリントン、ニューヨークの政治家や公園役人などがスピーチしています。



セントラル・パークの婦人参政権論者の新しい像 (credit : Hakim Bishara for Hyperallergi)

マンチェスター大学のグラディス・ミューア平和庭園 (アメリカ、インディアナ州)

2001年に完成したマンチェスター大学のグラディス・ミューア平和庭園は来年、20周年記念を迎えます。庭園は、世界初の学部生対象の平和学課程50周年を祝して造られました。庭園は静かに内省する場で、改装された小屋は集会室です。毎年、卓越した平和活動家を讃えて、記念額が庭園入口の平和の壁に架けられます。

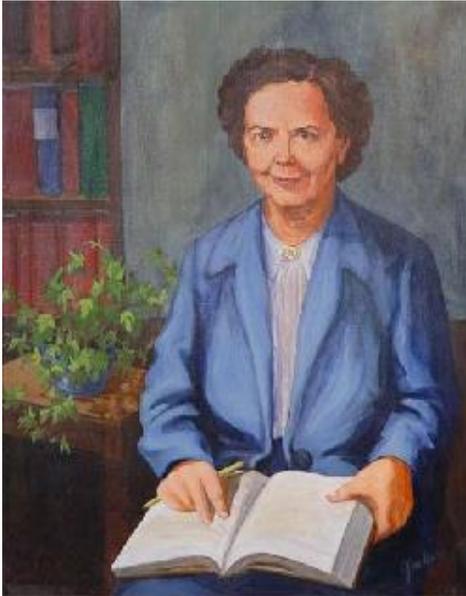


グラディス・ミューア平和庭園

先見的な平和学課程は、グラディス・ミューアさん(1895-1967)によるものです。彼女は古典と哲学の教授で、クェーカー主義に深く影響を受けています。1948年に当時のマンチェスター・カレッジで始められ、学際的な手法を取り入れ、哲学に重点が置かれました。他の機関で、平和学課程が採用されるようになるのに、25年かかりました。最近、大学が150万ドル募り、グラデ

イス・ミュア基金の平和学教授職が用意され、初代の任命がされました。

平和庭園の情報は[このサイト](#)で読むことができます。マンチェスター大学の平和学の歴史（6分のビデオを含む）は、[ここで](#)。また、ミュアさんのかつての学生によるミュアさんの伝記などは、これらのサイト（[1](#)、[2](#)）でご覧になれます。



グラデイス・ミュア（ジョイ・エリクソン画）
(credit: Manchester University Art Collection)

米国平和記念碑への賛歌

米国平和記念財団は、ワシントン D.C. に平和記念碑を建てるため、資金調達してきました。戦争に反対を唱えて、平和のために働く勇気あるアメリカ人を称えるためです。財団の創設者で、平和・社会活動家でもあり、歌手、ソングライターでもあるトム・ニールソンは、財団のための新しい賛歌を創りました。繰り返しの部分は、使命を伝える言葉です。「平和のために働く人々を称えよ」と。「平和記念」という4分間の歌と歌詞は、[このサイト](#)で視聴できます。



過去 25 年間トムは、風刺や社会批評、5大陸の 20 を超える国の人々への共感などを歌ってきました。社会変革へのフォークソングの力を信じる人々に、声を届けてきたのです。アートと活動を結ぶ、国内外の平和と社会正義の仕事は、歌に反映されています。彼はアフリカで何年も過ごし、米国平和部隊や国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) などのために働いてきました。いろんな組織から多くの賞を受けています。その一部は、彼の[ウェブサイト](#)で見ることができます。「年間社会活動歌」の最終審査に残り、受賞もしています。「先見性をもつ音楽賞」や「コネティカット平和音楽賞」なども得ています。

米国平和記念財団の創立・代表者で、2005 年に初めて記念碑を提案したマイケル・ノックスは最近、「戦争将軍の記念碑ではなく、平和の記念碑を創ろう」と題した記事を共著しています。その記事は、[ここで](#)読むことができます。2019 年に彼が話した「戦争文化を止めて平和活動を称えよう」の6分間ビデオは[このサイト](#)で。デビッド・スワンソンによるマイケル・ノックスの30分間インタビュー（2018年に録音）は、[ここで](#)聞くことができます。財団に関する情報は、[このサイト](#)をご覧ください。



トム・ネイルソン Tom Neilson

オーストラリア戦争博物館の 展示再開発に反対

スー・ウェアハム博士
戦争防止医学協会（オーストラリア）会長

キャンベラにあるオーストラリア戦争記念館（以後 AWM）は、大規模な再開発 (<https://www.awm.gov.au/ourcontinuingstory/ourplans>) と拡張を計画していますが、この計画は非常に強い地域社会の抵抗と反対に直面しています。再開発は、主にオーストラリアの最近の戦争と現在の戦争を記念することを目的に計画されており、現在も行われている作戦の宣伝も含まれています。新しい展示フロアの多くは、オーストラリアがなぜ戦うのかというよりも、どのようにして戦うのかという、戦争の武器を展示することが計画されています。提案されている変更点は、戦争の大げさな美化や現在の戦争の政治化に陥る危険性があります。さらにこの記念館は、戦争で利益を得る兵器産業からの資金提供を受け入れているという点で、非常に物議を醸しています。このことは、地域社会の反対の争点にもなっています。 [ここをクリック](#)

オーストラリアは、地球上のどの国よりも第一次世界大戦の記念に多くの費用を費や

し、100 周年を利用して高度に軍国化された国家の歴史観を広めました。もし AWM の拡張計画が進めば、オーストラリアの文化の軍国化が進み、「学んだ教訓」が完全に疎外されます。

それは、人間社会における戦争や特定の戦争の役割についての深い考察から遠ざける傾向にあり、これには反対すべきです。このプロジェクトに反対する多くの著名なオーストラリア人の声明を含む背景・情報は、[こちら](#)と[こちら](#)、[こちら](#)からもご覧になります。フィードバックは、[こちら](#)から AWM に提供されます。



選挙運動で使用されたハガキ

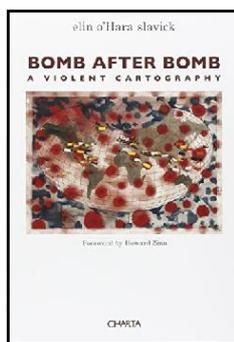
計画されている開発の全容（3 分間のビデオを含む）は、[ここ](#)で見ることができます。読者の方は、2019 年 11 月に「軍国主義：オーストラリアの創設に関する神話」と題して、ガーディアンのコラムニストでジャーナリスト、小説家、劇作家であるポール・デイリーが行った素晴らしいスピーチにも興味を持たれるでしょう。スピーチの内容は戦争防止医学協会の HP でご覧いただけます。 [こちらです](#)。

平和資料センター、ウィルミントン大学、オハイオ州、アメリカ

オハイオ州ウィルミントン大学の平和資料センター（以後 PRC）は、国内最大の広島・長崎関連資料のアーカイブを所蔵して

おり、原爆投下 75 周年を記念していくつかのイベントを開催しました。その一つは、8 月 17 日から 10 月 4 日まで、オハイオ州西部の高速道路に 13 枚の看板を設置しました。その目的は、国際紛争の解決策としての暴力と大量破壊兵器、特に核戦争の脅威をなくす必要性を意識させることです。PRC は、国際的に作品を発表しているビジュアルアートの教授であり、『Bomb After Bomb : 暴力の地図』（ハワード・ジンの序文付き）の著者でもあるアーティスト、エリン・オハラ・スラヴィック氏とのコラボレーションを行いました。本書には、彼女のドローイングシリーズ「抵抗の地図」の 48 枚のカラープレートが収録されており、次のように書いています。「もともこのシリーズは『アメリカが爆撃したところ』という名前だったのですが、秘密作戦、誤報、誤情報について学ぶにつれ、このタイトルは『アメリカはすべての場所を爆撃した』にすべきだと思うようになりました」。画像は[こちら](#)、で見ることができます。

13 枚の看板（すべて「Never Again」で始まる）のバーチャルツアーは[こちら](#) か [こちら](#) をご覧ください。この看板は、10 月 1 日・2 日に開催された PRC の第 30 回ウェステイマー平和シンポジウムの宣伝も兼ねています。「核の脅威：過去、現在、未来。バーチャル・シンポジウム」と題されたこのシンポジウムの全プログラムと多くのビデオ録画は、[こちら](#) で見ることができます。



エリン・オハラ・スラヴィックの本の表紙

ビデオには、「レスポンス・プロジェクト」で制作された作品のパフォーマンスと展示の様子も含まれています。さまざまなジャンル（音楽、詩、映画など）のアーティストが、原爆投下の人間的体験と核戦争の遺産に焦点を当てている PRC のバーバラ・レイノルズ記念アーカイブを訪れた際の体験を創造的に反応するよう求められました。



核の脅威：過去、現在、未来。バーチャル・シンポジウム

本プロジェクトの詳細については、[こちら](#) をご覧ください。

アメリカ合衆国先住民 シヨショーニ民族 —地球上で最も多く爆撃された民族

1951 年から 1992 年まで、アメリカ合衆国は先住民シヨショーニ民族の領土で 900 回以上の核実験を行いました。彼らの国土は約 4 万平方マイル（約 10 万 3 千 6 百 km²）の面積でネバダ州ラスベガスの西からアイダホ州スネイク川までの広大な地域に広がっています。シヨショーニ民族は少なくとも 1 万年の間この土地に住んできました。今日ではその子孫の人口は 2 万 5 千～3 万人と見積もられています。

彼らとアメリカ合衆国政府との関係は 1860 年代に結ばれた協定に基づいており、その協定ではアメリカ合衆国に軍事基地の設立を含む土地使用は認めていました。しかしながらこの協定に違反して、アメリカ合衆国は 1951 年に同国内で最初の核実験場を建

設し、その後 40 年以上の間、地上で 100 回、地下で 800 回以上の核実験を実施しました。その結果、この地に撒き散らされた放射能を含む核降下物の総量は 620 キロトンになったと見積もられています。（広島に投下された原爆による核降下物は 13 キロトンでした。）

アメリカ人、特に核爆発実験の風下に住むアメリカ先住民の地域共同体は最も多くこの核降下物に曝されました。彼らは放射性物質で汚染された野生動植物や汚染された牛乳を消費し、汚染された土地で取れた食料に依存して生活していたからです。

写真提供：ネバダ州博物館

彼らの生活は奪われ、経済は破壊されました。その土地では降下物が、微妙なバランスの上に成り立っている高地の砂漠の動植物相を破壊してしまいました。被爆の危険は他のアメリカ人よりも 15 倍高かったのです。彼らはこの放射性降下物という音もなくやってくる殺人鬼とアメリカ合衆国政府の秘密主義に苦しめられてきました。

先住民ショショーニ民族国家の西部部族の指導者で、先住民地域共同体活動評議会理事でもあるイアン・ザバーテは次のように語っています。「私の家族のうち数人は放射能被爆によって起こると知られている病気で苦しんでいるし、そのために亡くなったものもいます。」彼の「地球上で最も爆撃された民族からのメッセージ」という題の 3 分のビデオを[こちら](#)をご覧ください。その内容を書き起こした文章も[こちら](#)で読むことができます。



また『ラスベガス・レビュー・ジャーナル』誌に掲載された [‘Nuclear tests and the Shoshone people’](#) 「核実験とショショーニ民族」という題の彼の記事をご覧ください。証拠資料はネバダ州のリーノー市にあるネバダ大学の図書館と記録保管所の「特別収集物」に保管されています。



イアン・ザバーテは西部ショショーニ民族の首長です。

ここで、トゥラロサ盆地核実験場風下住民協会(TBDC)によって組織された、トリニティ核実験だけでなく広島・長崎のためにも開催された 75 年目の追悼行事にもご注目いただくべきでしょう。この協会はトリニティ核実験の犠牲者のために運動するために設立されました。「無名の、不本意にも被爆させられた、何の補償も受けていない無実の被害者のために正義を求める」ことを目的としています。トリニティ核実験は 1945 年 7 月 16 日にニュー・メキシコ州中南部で行われた世界で最初の核実験です。

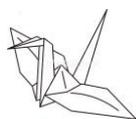


最初の核実験から 75 年間謝罪や補償を待っていることを訴える TBDC のバンパーステッカー

彼らは世界で初めて放射能に曝された人々でした。多くはその結果苦しみ、亡くなりました。75 年経っても彼らの子孫はま

だアメリカ合衆国政府が被害の事実を認め、謝罪し、補償するのを待っています。生存者と彼らの子孫の多くは今日でも健康を害されて苦しみ続けており、正義を求め、そして政府による公式な否定と無視が終わることを求めています。この協会の感動的で、力強いメッセージを含むビデオ「私たちはみな核実験場の風下に住む住人だ：この 75 年間で待ち続けること 1945 年～2020 年」

(1 時間 40 分) をこちらで見ることができます。 [We Are All Downwinders: 75 Years and Waiting, 1945-2020](#)



アイ・ウェイウェイ「爆弾の歴史」 帝国戦争博物館、ロンドン

アイ・ウェイウェイ (艾未未) の「爆弾の歴史 (History of Bombs)」は、飛行の発明が戦争に爆発的な可能性をもたらした 20 世紀初頭以降、人類がいかに凶悪な兵器を蓄積してきたかを詳細に描いた作品です。ロンドンの帝国戦争博物館の中央ホール (アトリウム) の床一面に、等身大の 3D 映像で再現された多種多様の爆弾やミサイルが描かれ、中央階段の外周にも流れています。ホール全体がアーティストに譲渡されるのは初めてのことです。5 分間のビデオ「アイ・ウェイウェイ『爆弾の歴史』制作 (Ai Weiwei on making "History of Bombs")」では、この印象的な作品の成り立ちと目的を説明しています。これは、展覧会、アート・コミッション、没入型イベントなどで構成されている美術館の「難民」シリーズの一部です。この作品は、アフガニスタン、シリア、ガザ、その他世界各地の難民の苦境と、制作について、過去 5 年間の彼の制作の成果です。



イギリス・ケンブリッジのアイ・ウェイウェイ (提供: David Levene/The Guardian)

爆弾の正確な物理的描写に焦点を当て、人々が互いを殺し合う巧妙な方法の歴史を展示し、感情や判断は訪問者に委ねられています。爆弾の目的が人命に危害を加え、破壊することだけであることは明らかです。展覧会は 8 月 1 日から始まり、2021 年 5 月 24 日まで開催されています。詳細とビデオについては、[こちら](#)をご覧ください。また、ガーディアンの記事は[こちら](#)からどうぞ。

[this article](#)



IWM ショップで購入できる限定ポスター

製造され爆発実験が行われた 史上最大の核兵器

これまでに製造され、爆発させられた核兵器の中で最大の核兵器の爆発実験が、1961 年 10 月 30 日に当時のソビエト連邦、現在のロシア領内の北極海に浮かぶ列島ノヴァヤゼムリヤで行われました。50 メガトン (5 千万トン) の核出力で広島型原爆の

約 3800 倍に相当したこの兵器は（ツァーリ・ボンバと呼ばれていましたが）、アメリカ合衆国との間の緊張が高まった時期に、ソビエト連邦閣僚会議議長ニキータ・フルシチョフの指令により作られたものでした。地上 4km のところで爆発させられたのですが、その地震衝撃波はマグニチュード 5 以上の地震に匹敵するほどで、世界中で計測されたのです。その火球の閃光は他のどんな核実験よりも長く観察され、千 km 離れたところからも見えたほどでした。完全に破壊された範囲は半径 35 km に渡り、核実験の中心地となる軍事基地であるセヴェルヌイの街は爆心地から 50 km 離れていましたが、そこにあったほとんどの建物が破壊されました。放射性核降下物はスカンジナビア半島全域で計測されて、ソビエト連邦は非難を浴び、国内でも抗議運動が起きました。

ソビエトの水素爆弾の父であるアンドレイ・サハロフは、その後すぐに核実験と核兵器拡散に反対する声明を出し始めました。彼の努力は 1963 年の部分的核実験禁止条約の調印に貢献しました。1975 年には彼はノーベル平和賞を受賞しています。（これは、抑圧的なソビエト連邦下における彼の人権擁護活動に対する受賞でもありました）



アンドレイ・サハロフ

2020 年 8 月に、ソビエト連邦の怪物とも言えるこの巨大な核兵器に関する 40 分のドキュメンタリービデオがロシアのロスアトム国家原子力会社によって公開されました。これは、以前はソビエト連邦の機密事項扱いだったビデオですが、核兵器産業 75 周年を記念して公開されたのでした。この動画は古典的なソビエト式のプロパガンダとして編集されており、ロシア語で録画されていますが、英語の字幕がつけられています。その動画はまず、その巨大な爆弾が、特別な列車でコラ半島の飛行場駅まで運ばれ、飛行機でバレンツ海を横切り、ノヴァヤゼムリャの水爆投下地点まで輸送される場面で始まっています。それからその爆弾の投下、そしていくつかの方向と距離からのビデオにより撮影された核爆発の瞬間とキノコ雲が映し出されます。そのビデオは [こちら](#) から見ることができます。モスクワから南東 400 km のところにあるサロフという街に核兵器博物館があり、そこにこの爆弾の模型があります。サロフはアメリカ合衆国で原爆が製造されたニュー・メキシコ州ロス・アラモスの姉妹都市になっています。このサロフの博物館は 1992 年に設立されました。[こちら](#) と [こちら](#) により多くの情報が掲載されています。ステフェン・シャンクランドによるサロフとその博物館訪問についての報告は [こちら](#) の [リンク](#) から読むことができます。

米国物理学協会の物理学歴史センターによるインターネット上の展示『アンドレイ・サハロフ：ソビエトの物理学・核兵器・人権』は [こちら](#) の [リンク](#) からご覧いただけます。[Andrei Sakharov: Soviet Physics, Nuclear Weapons, and Human Rights](#)



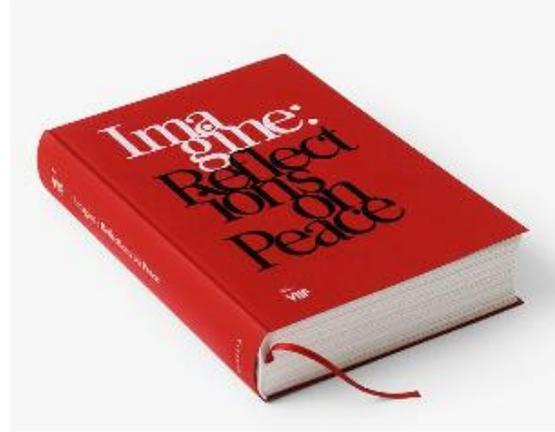
サロフの核兵器博物館にある「ツァーリ・ボンバ」の模型

平和ってどんなもの？

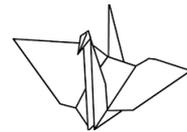
9月にジュネーブの国際赤十字・赤新月博物館で開催され、世界を回る予定だった巡回展「平和ってどんなもの？(What does peace look like?)」は、新型コロナ・ウィルスの世界的大流行により、一時中断されています。この展覧会は、ニューヨークに拠点を置く独立した非営利のメディア・教育写真エージェンシーである VII 財団 (VIIF) の協力のもとで開催されています。同財団は、複雑な社会・経済・人権問題に取り組むドキュメンタリー作品を支援するために、2001年にロン・ハビブとゲイリー・ナイトという2人の著名な写真家によって設立されました。

本展は、戦争や暴力的な紛争を終わらせ、平和を築くための議論を促進するために考案された VIIF プロジェクトの一環として開催されます。また、短編映画や書籍『イマジン (Imagine) : 平和についての考察』も含まれています。400ページに及ぶ200枚の写真を取録したこの本には、写真を使ったエッセイのほか、社会や個人が言葉では言い表せないほどの残虐な行為の後に前進するためには何が必要かについて、学者や専門家の見解も含まれています。ボスニア・ヘルツェゴビナ、カンボジア、コロソ

ビア、レバノン、北アイルランド、ルワンダの紛争と平和構築が取り上げられています。イマジン・プロジェクトについての詳細は[こちら](#)を、本については[こちら](#)を、財団については[こちら](#)を、ご覧ください。



イマジン：平和についての考察



グローバル平和写真賞

『平和の目標－アルフレート・フリート (Obiettivo Pace - The Alfred Fried Photography Award)』と題して、2019年のコンテストのファイナリストの写真が、10月7日から30日まで、ローマのオーストリア文化フォーラムのフェンス沿いに展示されています。このような方法で、展覧会は常時、誰にでも開かれています。同様の展覧会は過去にも開催されています。2019年の受賞者は、抗議運動「未来の気候のための金曜日」をテーマにした写真レポートのシュテファン・ボネス (ドイツ) でした。113カ国 1,550人の写真家から17,000点以上の写真の応募がありました。2020年は、118カ国から20,000点近くという過去最多の写真が応募されました。27枚の画像のリストは[こちら](#)で、ご覧いただけます。

「2018 年最優秀子ども写真賞（チルドレン・ピース・イメージ・オブ・ザ・イヤー）」の中から選ばれた写真は、2018年11月から2019年3月まで、ウィーンの有名な自然史博物館で展示されました。開会式には 200 人の来場者があり、参加した若手写真家のうち 2 名がオーストリア公共ラジオのインタビューを受け、大成功を収めました。また、2018 年の受賞者である Kaja Tasevska（マケドニア）も出席しました。この展覧会には、同美術館が独自に開催している「戦争－進化の足跡（Krieg - Auf den Spuren einer Evolution）」と題して、過去 7,000 年の戦争の進化の過程を展示しました。



オーストリア文化フォーラムの外での展示会、ローマ

この展覧会（ドイツ・ハレにあるザクセン・アンハルト州立先史博物館との協力で行われた）は、第一次世界大戦終結から 100 年、三十年戦争開始から 400 年という 2018 年のヨーロッパ遺産年に貢献したものです。展示の主な対象は、三十年戦争からの大量のお墓でした。最優秀子ども写真賞の詳細は[こちらを](#)、戦争展については[こちらを](#)ご覧下さい。



「平和ってどんなもの？」－Lois

両賞は、オーストリアの写真家であり出版者でもあるロイス・ランマーバー氏が、妻のシルビア氏と共同で始めたものです。コンテストと展示会の目的は、平和を祝い、写真を通して平和への探求を促進することです。最優秀賞は 10,000 ユーロ、ジュニア賞は 1,000 ユーロの価値があります。毎年オーストリア議会で授与されるアルフレート・フリート写真賞は、1911 年にオーストリアのノーベル平和賞を受賞したアルフレート・フリートにちなんで、その名が付けられました。初の平和ジャーナリストとしての彼のキャリアにスポットを当てた最近の記事「Profile. アルフレート・フリート、PJ パイオニア」は、平和ジャーナリスト 10 月号に掲載されており、こちらからご覧いただけます。

https://issuu.com/peacejournalism/docs/peace_journalist_oct_2020-web



2019 年受賞者シュテファン・ボネス、抗議運動
「未来の気候のための金曜日」

平和を視覚化する： 写真・紛争転換・平和構築

2017 年 6 月に社会情勢研究所(STI)との共催で、専門家の会議がエディンバラ大学において開催されました。その会議の主題は「平和を視覚化する：写真・紛争転換・平和構築」でした。

STI は、新しく出てきた社会潮流やその社会に対する影響の意味を理解しようとする学者を支援する独立した非営利研究所です。この会議で扱われた中心的な論点は写真と平和構築の間の関係という問題でした。紛争の写真と集団的な態度に対してそのようなメディアが発信するイメージが与える影響に関しては多くの論文が書かれています。平和構築における写真表現の役割に関しては相対的にあまり注目されてきていません。市民社会を創造し、維持し、復興することだけでなく、紛争を描写し扇動することに関して、物事がどのように見え、それらがどのように知覚されるかは極めて重要な問題です。写真のイメージは市民社会の存続に必要な基本的設備の一部になってしまっています。つまり写真データがデジタル情報に変換されたことでより多くの人に届くようになり、潜在的な重要性が更に高まったということです。写真はこのように紛争後の社会において人々の関係性を修復する過程で必要

不可欠な部分なのです。

10 以上の論文の内容の濃い要約が発表され、それらは共に学際的で国際的な展望を示していました。こちらの STI のウェブサイトです。それらを読むことができます。[STI website](#)

そのサイトに掲載されている話題の中には以下のようなものがあります。平和のための出版：1965 年～1975 年ベトナム戦争の時代における社会運動と写真集、1981 年～2000 年グリーンナム・コモン女性平和キャンプでの平和の対話の構築における写真の使用、男女同権主義者の平和主義、写真と第一次世界大戦中の平和会議、写真と虐殺防止、見ることに何の害があるのか。平和構築のための写真に対する人道主義的な凝視の再評価。

この 3 日間の会議では、写真と平和構築に関する専門家による上級クラスも目玉となるプログラムとして実施されました。

平和のための映画財団

戦争やテロ、人道的な大惨事は世界の多くの地域で悲しい現実ですが、アーティストは世界の状況を変えることができ、映画や映画製作者は平和と人類のために立ち上がることができます。「平和のための映画イニシアチブ」は 2002 年、「平和のための映画財団」は 2008 年にジャカ・ビジリ（映画監督／プロデューサー、人道主義者）によって設立されました。



「平和のための映画」は、映画を通じた人道的な取り組みを推進する一方で、ベルリン国際映画祭の期間中に毎年開催される「平和のための映画祭典」に国際映画界の人々を招待しています。違いをもたらす模範的な作品のフィルムクリップが上映される一方で、監督やプロデューサーは、表彰された作品に贈られる「平和のための映画賞」で祝われます。2020 年の賞のカテゴリーには、「今年最も価値のある映画」、「今年最も価値のあるドキュメンタリー」、「今年最も政治的な映画」、「国際グリーンフィルム賞」、「女性のエンパワーメント」、「正義」が含まれています。平和のための映画財団のほか、ユニセフ、UNHCR、UN Women などの人道支援団体

も参加しています。また、当財団は様々な活動の中で、拘留中の映画製作者も支援しています。詳細は[こちら](#)と[こちら](#)をご覧ください。

ジャカ・ビジリは、ベルリンのイーストサイドギャラリーで開催されている「壁博物館」のスポンサーでもあります。2016年に開館したこの博物館は、壁の建設理由から1989年11月の劇的な崩壊まで、一夜にして世界を変えた壁の全貌を伝える最初で唯一の博物館です。この博物館では、100以上のスクリーン、プロジェクター、インタラクティブなディスプレイを使用して、第二次世界大戦の終結からドイツとベルリンの分断、壁の建設、そしてそれが人々の生活をどのように変えたかまでを案内しています。1960年代の本物のニュース映像では、壁を越えようとした人々の様子やその運命が記録されています。博物館の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。



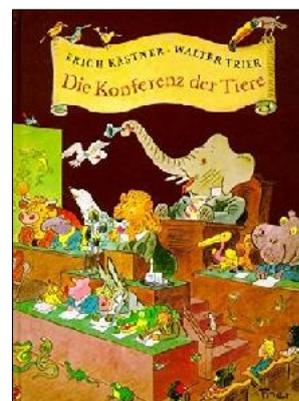
「壁博物館」開会式でのジャカ・ビジリ（左）
(提供：Getty images)

動物の会議ー ニューヨーク市、クィーンズ博物館で の壁画と展示

2020年9月16日から2021年1月17日にニューヨーク市、クィーンズ博物館（ニューヨーク市の5つの行政区の一つであるクィーンズ区から名付けられています）で、「動物の会議」と題された壁画と展示を見

ることができます。この題は、1949年に出版されたドイツ人の作家エーリッヒ・ケストナーによって書かれ、ヴァルター・トリーアによる有名な挿絵が付けられた児童文学の書籍を参考にしています。この話は政治的な風刺で、動物のグループが、人間は平和を維持することができないということに気づいて、彼ら自身が平和を維持するために会議を招集するという内容です。また、子どもの権利を擁護することや、戦争と暴力・愚かさと無知に反対することも情熱的に訴えています。この壁画は芸術家のウルリケ・ミュラーによるもので、子供の絵の展示は博物館に所属していない独立学芸員エイミー・ザイオンによるものです。この展示には1900年から現在までの子どもたちの芸術作品も含まれており、その多くはニューヨーク市にある児童美術館から貸与された作品です。その作品のいくつかは国際外交の役割を果たしたことがあります。

この会場は最も興味深く適切な場所です。1972年から現在までクィーンズ博物館となっているこの建物は、1939年の万国博覧会のために建設されたニューヨーク市館の中にあり、これはその博覧会の建築物の中で唯一現存する建物です。第二次世界大戦後、1946年から1950年には新規に創設された国連の総会が、マンハッタンにある現在の国連本部が使用できるようになるまでは、ここで開催されていました。



「動物会議」のドイツで出版された原版の表紙

国連総会が開かれていた間、ほぼすべての世界の指導者がこの建物で時を過ごし、多くの重要な決議案がここで可決されました。この建物は1964年から1965年にかけて開催されたニューヨーク万国博覧会でも博覧会本部会場として使用されました。この建物の近くに140フィート（約42.7m）の高さのユニスフィアと呼ばれる巨大な地球儀がありますが、これは1960年代の博覧会のために制作が依頼されたもので、その中心的な象徴となり、この万博の主題「理解を通しての平和」を美しく印象的に表していました。



ニューヨーク市館/クイーンズ博物館にある
ユニスフィア

動物の会議に関する想像力に富む現代の改作された作品の一つには、今回は鳥や蜜蜂やアメリカ合衆国大統領も登場しています。その作品はこちらから見るができます。[this link](#) この絵の主題は環境です。このリンク先の3分間のビデオは「母なる自然によって承認されたメッセージ」です。

この壁画と展示、この博物館とその歴史についての情報は[こちら](#)と[こちら](#)にあります。ユニスフィアについては[こちら](#)をご覧ください。エーリッヒ・ケストナーに関し

てはこのニューズレターの前号31号2020年6月号のp.3をご参照ください。



アイスランド、アクラネースの 戦争と平和博物館

アイスランドのアクラネース（首都レイキャビクから約50km）にある戦争と平和博物館では、第二次世界大戦中の占領の歴史、特に平和な田舎が世界の出来事の中でどのように変貌したのかと、連合国の勝利に対してアイスランドが果たした重要な役割を知ることができます。アイスランドはデンマークに支配されていましたが、1940年にナチス・ドイツがデンマークに侵攻した際に主権を取り戻しました。その後まもなく、イギリス軍とカナダ軍がアイスランドを占領しましたが、アイスランドは抵抗しませんでした（アイスランドには軍隊がありませんでした）。アイスランドは、1941年にイギリスとカナダの兵士に代わってアメリカ軍に占領された時、アメリカとの間で合意に達しました。この「友好的な」占領は、1944年にデンマークからの独立を宣言したこの小さな国に、経済的、社会的、文化的、政治的に大きな影響を与えました。



アクラネースの戦争と平和博物館
(写真提供：ガンナー・シグマンドソン)

2017年には、ロシアのアーティスト、ウラジーミル・アレクサンドロヴィッチ・スロツェフ氏が制作・寄贈した「平和への希望」像が博物館の外にお披露目されました。これは、2005年（第二次世界大戦終結60周年）に駐アイスランドロシア大使の発案でレイキャビクに建立された、戦死した北極圏の護衛艦の船員を追悼する記念碑の複製です。最近の記念碑の前での式典の様子は、[こちら](#)と[こちら](#)をご覧ください。



「平和への希望」像
(写真提供：ガンナー・シグマンドソン)

この博物館についての詳しい情報は、3分間のビデオや、占領中の写真ギャラリーも含めて、このウェブサイト [website](#) で見ることができます。また別の写真ギャラリーがこちらにあります。 [this link](#)

ナイジェリア内戦記念式典

ビアフラ戦争としても知られているナイジェリア内戦（1967年～1970年）終結から50周年を迎え、今年始めに記念式典が行われました。この残忍で大量虐殺を伴った戦争は、連邦政府と分離主義者の住むビアフラ地方との間で起こりました。アフリカ統一機構、国連、米国、そして特に旧植民地支配国である英国を含む世界の多くの

国々は、これは内政問題だと主張して、傍観していました（ただし、英国は中央政府に武器を提供し続けていたことを除いて）。控え目な推定によると、50万人から200万人（中には600万人という説もあります）のビアフラ人（男性、女性、子どもを含む）が死亡し、多くは餓死しました。経済封鎖を通じて、飢饉は意図的な戦争と服従の道具として利用されました。



和解のプロセスの一環として当初考えられていた国立戦争博物館の設立計画は、1985年に正式に開始されました。しかし、1989年にウムアヒアに開館し、ナイジェリア国防省が管理に参加しているこの博物館は、多くの点で伝統的な、再構築されていない戦争博物館であり、主に戦争の武器を展示し、国の統一を守った「英雄と犠牲者」を讃えています。したがって、この博物館が特にナイジェリア人自身によって少なからず批判的な分析の対象となっているのは、当然と言えるでしょう。人々は平和と和解に貢献できる博物館の必要性和可能性を感じているからです。

文献が増えてきている中で、最近の記事としては、イヘアニチュクウ・オンウエグブチャ（現在、ラゴスの現代美術センターの学芸員）による「国立

戦争博物館ウムアヒア：ビアフラ戦争の歴史の記述」とオゴンダ・ジャスティス・ニエマとオワジオニ・L. フランクによる「ナイジェリアにおける平和と和解の促進のた

めの道具としての戦争記念館」の2つを挙げることができます。



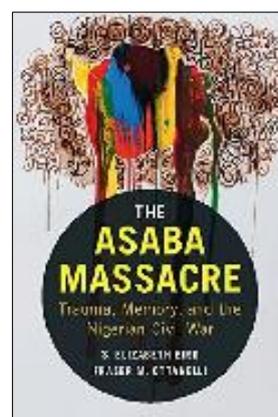
1969年11月25日、ナイジェリア・ビアフラ戦争への英国の関与に抗議し、大英帝国五等勲爵士を女王に返還した後に行われた記者会見でのジョン・レノンとオノ・ヨーコ（写真提供：ジョー・バンダイ/エキスプレス/ゲッティ・イメージズ）

ポート・ハーコートのリバーズ州立大学建築学科出身であるニエマとフランクは、既存の戦争記念館に隣接して、癒しと追憶というテーマをより中心的かつ包括的に扱う超近代的な戦争記念館を建設することを提案しています。この提案されている世界的レベルの博物館（その設計図は記事の中に掲載されています。）は、「戦争の悲惨な結果について分離主義者グループに警告する一方で、調和のとれた共存のための唯一の選択肢として平和をさりげなく提示する」ことも目的としています。このような野心的で美しい博物館には観光客が多く訪れる可能性があることもこの記事では強調されています。その記事は[ここ](#)と[ここ](#)で見ることができます。

ビアフラ戦争の記念館として、エヌグに記憶のセンター／博物館を作ろうという試みもありますが、ナイジェリアの政治状況のために適切な計画の開始が妨げられています。暫定的な博物館が設立され、このセンターでは戦争と戦後のイグボスの復興と発展を記念した臨時展示が主に行われています。「ビアフラ戦争の記憶」は、戦争を

記憶し、戦争を生き抜いた人々の直接の証言（写真、文章、ビデオによる記録）のデジタル・アーカイブ（デジタル化された情報の記録保管庫）です。詳細については、[ここ](#)と[ここ](#)を参照してください。

また、ナイジェリア内戦中の1967年10月7日に起きた民間人の大量殺戮を記録し、追悼するために、アサバの人々と共に南フロリダ大学で2009年に開始された「アサバ・メモリアル・プロジェクト」も注目すべきものです。2012年にアサバで初めて展示された11枚のパネルの展示は、[このリンク](#)から見るることができます。また、こちらは「アサバ・メモリアル」の[ウェブサイト](#)です。



2017年にケンブリッジ大学出版から出版されたエリザベス・バード及びフレイザー・M. オッタネリ著『トラウマ・記憶・ナイジェリア内戦』の表紙

新刊案内

2020年版 世界の平和のための博物館

第10回 INMP 国際会議では、恒例となりつつある『世界の平和のための博物館』の2020年版が、英語版と日本語版の両方で

発行されました。山根和代・安齋育郎編のこの名鑑（英語版 350 ページ、日本語版 398 ページ）は、第 10 回平和博物館国際会議組織委員会（立命館大学国際平和ミュージアム）によって発行されています。こちらの INMP のホームページで自由に閲覧できます。[INMP website](http://www.inmp.org)

この写真入りの名鑑には、安齋育郎の序文と、『平和博物館紹介』（2016 年）の著者で、編集長を補佐した 6 人の編集委員の一人でもあるジョイス・アプセルによる寄稿文「平和に対して批評眼のある博物館：世界中の平和博物館訪問」が掲載されています。

さらに山根和代による編集資料や、巻末には、地域や国別に配列された博物館の一覧表も掲載されています。この本には、オーストラリアからベトナムまで、国名のアルファベット順に博物館の紹介が掲載されています。掲載されている 49 カ国のうち、ヨーロッパが最も多く（18 カ国）、次いでアジア（15 カ国）、アフリカ（6 カ国）、中東（3 カ国）、中南米（3 カ国）、北米（2 カ国）、オセアニア（2 カ国）となっています。紹介されている 300 の博物館のうち、最も多くが日本（84）にあり、次いでアメリカ合衆国（40）、韓国（20）、ドイツ（18）、中国（15）、オランダ（12）に多くの平和博物館があります。

20 カ国からは、各国 1 つの博物館が紹介されており、国立博物館（ナミビア、ルワンダ）の場合もあります。ケニアの場合、1 つの登録で（地域共同体平和博物館遺産財団）は、国のさまざまな場所にある 16 の別個の博物館を紹介しています。

この名鑑に掲載されている博物館の多くは、戦争博物館や抵抗運動博物館（ホロコースト博物館や大量虐殺博物館も含む）で

す。明らかなように、平和、平和博物館、平和のための博物館の定義は論議され、問題となっており、INMP の会議でも議論の対象となっています。読者の皆様の感想やその他の博物館の追加掲載についての提案をお待ちしております。193 カ国が国連に加盟しているのですが、この名鑑にはその 4 分の 1 の国の平和博物館しか載っていないのですから、掲載すべき多くの候補があるはずです。



英語版

日本語版

このことは、この名鑑の将来の版には、（各国一人以上の編集者とまではいなくても）各地域の編集者が編集に参加することが有益であることを示唆しています。オンライン上だけでなく博物館の実際の建物の存在を博物館の定義に入れるべきか、計画段階の博物館や部分的に完成した博物館の位置づけをどうすべきか、そしてこれらの博物館を名鑑に含めるべきかどうかははっきり決まっていないので検討すべき課題となるでしょう。カザフスタンの平和博物館の例を挙げると、セミパラチンスク核実験場の閉鎖を命じた大統領令から 21 年目であるその年の 8 月に、セメイで「平和の博物館」の建設を開始することが 2012 年に発表されました。この記念館は、40 年にわたるセミパラチンスクでの核実験の犠牲者を追悼するために計画されたもので、いくつかの構成要素が実現しています。計画されている平和博物館（人間の手の上に置か

れた水晶玉の形をした5階建ての建物になる予定)と同じデザインの彫刻は、[ここ](#)で見ることができます。その他の画像は[こちら](#)、[こちら](#)、[こちらのリンク](#)、そして[こちら](#)にもあります。

(訳注:2014年8月にセメイに平和博物館が開館し、小溝泰義平和首長会議事務総長が開館のテープカットの行事に参加しました。こちらにその新聞記事が掲載されています。この注は英文記事の執筆者からの提案で日本語版に掲載しています。

https://www.kazinform.ru/en/museum-of-peace-unveiled-in-semey_a2691837)

一方、平和と和解博物館が、2006年にカザフスタンの首都アスタナ(現在はその雄大な遷都計画を提案した前支配者にちなんでヌルスルタンと改称されています)に開館した平和と和解の宮殿の一部に設立されています。その建物(ノーマン・フォスター設計)の説明と画像については、[こちら](#)をご覧ください。

最初の「平和博物館名鑑」は、1992年に英国のブラッドフォードで開催されたネットワークの発足会議の後に編集され、その会議の報告書(『人々に平和をもたらす』1993年)の末尾に掲載されました。この時は、ホロコースト博物館と赤十字博物館は「平和に関連する」博物館とみなされていました。この会議は、英国の「平和に機会を与えよう」信託財産受託団体によって召集され、その報告書が出版されました。この慈善団体は1986年に「平和運動の歴史と現在の活動を人々に伝え、平和のための博物館を設立する」ために設立されました。『世界の平和のための博物館』に掲載されている博物館の中で、平和運動をテーマにした博物館は比較的少ないのです。エドワード・W・ロリス(2013年出版の『不朽の美:世界の平和記念碑と平和博物』の著者)

が編集した「33のカテゴリーに分類された510の『平和のための博物館』」という包括的なリストは、素晴らしい資料ですが、『世界の平和のための博物館』には記載されていません。「33のカテゴリーに分類された510の『平和のための博物館』」はこちらのウェブサイト [website](#) で見ることができます。これは、約3,000の平和記念碑やその他多くのものを含む彼の大規模なウェブサイトの一部であり、名前と主題のアルファベット順リストへの600のリンクを含む包括的な索引については、[こちら](#)をご覧ください。



この通信は、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、山根和代、安齋育郎、キヤ・キムによって編集されました。また日本語版の翻訳は、赤松敦子さん、寺田京子さん、山本美穂子さんが担当しました。この通信は、INMPの個人と組織をつなぐ重要な場です。またINMPの会員ではない方が世界の平和博物館の活動を知る上で、大変重要です。

以前発行された通信は [INMPの新ウェブサイト](#) で読むことができます。

<http://tinyurl.com/INMPMuseumsForPeace/>

INMPの通信は年に4回発行されますが、定期的に読みたい方は、メールアドレスを次のメールにお知らせ下さい。

inmpoffice@gmail.com

2020年12月に発行される次号に投稿したい方は、2020年11月20日までに原稿をお願いします（英文で500語以内、日本語の場合1000字以内、写真1-2枚）。直接英語による原稿を書くことに困難がある場合には、以下のINMP日本事務局にご相談ください。

inmpoffice@gmail.com

INMPコーディネーターからの お知らせ

INMPの会費と寄付をお願いします。

INMPの財政はみなさまの会費と寄付によって成り立っています。これまですでに会費を支払った方には感謝申し上げます。まだの方は、納入をよろしくをお願いします。

*日本の方は、次の口座に振り込むようお願いいたします。

年会費 2,000円

※送金先：INMP 郵便局振込用口座

記号 14480 番号 49799181

名前 アイエヌエムピー

他金融機関からの振込の場合

店名 四四八（ヨンヨンハチ） 店番
448

普通預金 口座番号 4979918